

Q：国語の授業では、どのようにノートを作ればよいのでしょうか。

A：ノートには次のような役割があると考えられます。

I：練習としての役割…漢字の練習などをする。

II：記録としての役割…学習した事（板書）や自分の考えなどを書き留めておく。

III：整理する役割…調べたり学習したりしたこと、自分や友だちの考えを分類整理する。

IV：思考を促す役割…自分の考えの筋道や過程を書き留めたり、新たな気付きや自分の考えを表現する。

質問のとおり、ノートは「とる」ものではなく「作る」ものです。そう考えるとⅢやⅣが大切だと言えますが、まずは「ノート作り」ができるための基本的なものをしっかりと身に付けさせていきましょう。

アドバイス：

①まず、ノート作りの基本を教えましょう

- ・適切なノートを選ぶ…発達段階とねらいに合わせて選ぶことが基本です。一般的に中学年以上の授業用は「行のノート」を使用することが多いようですが、国語では学年を問わずマス目のノートを使うことがお勧めです。マスを使うことで整った文字を書くことができます。また、原稿用紙の使い方、段落意識、文字数など、表記のきまりを常に意識させることができます。
- ・書き方を教える…日付を書くこと、題名やタイトルの書き方、簡条書きや表の書き方、板書の書き写し方（学級内でのチョークの色の約束）、色（鉛筆色、赤、青）の使い分け、プリントの貼り方など、学級内で共通にしたいことは一つ一つ指導します。

②整理したり思考を促したりするノート作りをさせましょう

ア 整理やまとめの仕方を示し、使える表現方法として定着させる

表にする、絵や図で表す、矢印を使う、色分けする、といった表現の方法とその特徴を示して使えるものにさせていきましょう。例えば、表は比較する際に便利であり、図や表は視覚的に構成や全体像をとらえやすい、矢印は変容を表す時に便利であるという特徴を持ちます。また、学習問題や学習課題（ねらい）は青線で、まとめや自分の考えは赤線で囲む、重要な語句は赤字で書くなど、学級内で約束を決めておくといよいでしょう。

イ ワークシートをノートに書かせ、ノート作りのイメージを持たせる

授業の中でワークシートを活用することがよくあります。これは、教師が枠や表を作り、子ども達はその表の中を埋めていくことが活動の中心となります。そこで、自分で思考した内容を書いたノート作りにつなげる手立ての一つとして、教師が作った枠や表をノートに書かせる所から始めるといった具体的な活動を組んでみましょう。枠や表の項目の意味を考えたり、項目どうしの関係を考えたりするなどの思考を伴った活動になります。

- ※ 良いノートは教室に掲示しましょう。教師はすべての子のノートを見ることができませんが、子どもたちが友だちのノートを見る機会はなかなかありません。そこで、良いノートを教室にどんどん掲示すれば、良さをまねたり取り入れたりしながら、自分のノート作りの参考とするはずです。そして、次は自分も掲示してもらおうとノート作りの意欲が高まることも大きな効果です。